

## 「スケートボードグループのプロモーションについて」

22211301 長谷川智士

近年オリンピック正式種目に採用されたスケートボードや BMX を含むアーバンスポーツのマーケットに着目した。

主にアーバンスポーツの練習場として用いられるスケートパークの数が増加傾向にある。しかし、道端などでアーバンスポーツをすることが問題視され取り上げられるニュースなどを見かけることが増えた。

オリンピック正式種目に採用された反面、よくない注目も浴びている事実がある。ストリートでアーバンスポーツをする人々をどのように改善すればスケートパークを利用するようになるのか、そしてこれからアーバンスポーツが発展し、マーケットが拡大していくのかを調べていく

### プロスケータへの道

- 1、日本スケートボード協会(AJSA)公認のアマチュア大会総合獲得ポイント  
上位16位以上で全日本スケートボードアマチュア選手権出場可
- 2、全日本スケートボードアマチュア選手権決勝上位8位でプロ資格獲得  
全日本スケートボードアマチュア選手権(年1回開催)
- 3、1年に8人のペースでプロ選手が誕生している

### スケートボードの市場規模

グローバルで見たスケボーの市場規模は増加傾向にある。  
2020年から2026年にかけて年平均成長率2.0%で成長していくと見込まれている。  
2020年は日本円でざっと170億であり、2026年で190億円が見込まれている。

### 利用可能施設数

2017年100 2021年243 2022年340 2023年434  
と年々約100施設ずつ増加している

アーバンスポーツ施設のほかに専門店、ショップなどの増加も期待できると考える。